

パークナード目黒

No. 19-018-2016作成
新築
集合住宅

発注者	株式会社パナホーム	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	(株)安藤・間一級建築士事務所		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	(株)安藤・間		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

環境と未来を見据えた住まい創り

周辺環境・計画コンセプト

当計画地は目黒駅に近く、トレンドの発信地でありながら、豊かな自然が残る歴史深い土地に立地する。多面的な魅力を持つこの地に、省エネ、エコ対策を重視し、太陽光発電と蓄電池を活用した創蓄連携システムとともに、目黒川にそよぐ風の流れを建物内に導くパッシブ設計を採用等、環境と未来を見据えた住まい創りを目指した。

「いきものプラス®」による

目黒区潜在自然植生の選定

街路から大きくセットバックしたスペースに豊かな緑地や歩道状空地を設けた。植栽計画を構築するに当たり本プロジェクトでは、国土交通省支援のもとに定められた建築環境総合性能評価システム「CASBEE®」に対応する生物多様性評価ツール「いきものプラス®」を採用。加えて目黒区潜在自然植生として選定された樹種に配慮し、地域の自然環境にふさわしい植栽をプランニングしている。これにより、周辺に息づく緑とつながり、地域環境を受け継ぐとともに、野鳥などの生物の命を育む新たなグリーンスポットとなることが期待できる。



「いきものプラス®」

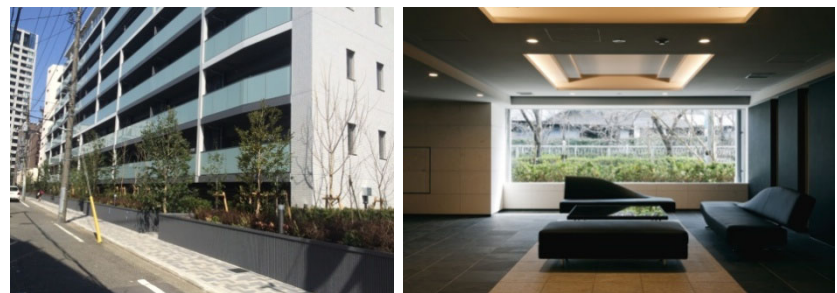
株式会社安藤・間ほか建設7社共同開発

CASBEE®対応型生物多様性簡易評価ツール

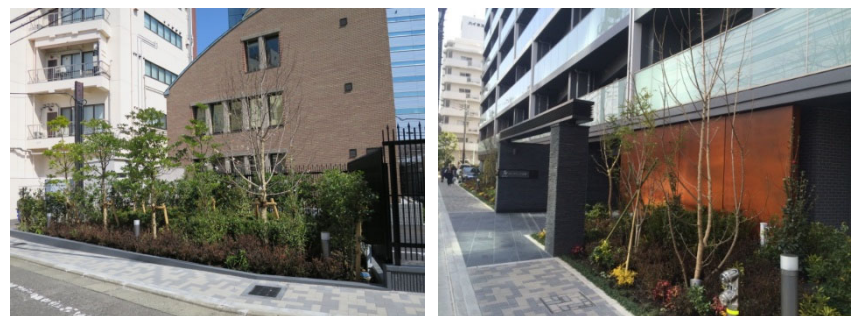
※表記のシステムは、主に陸上で棲息する地域の鳥類及び蝶類の一般的な生態をもとに緑地造成の参考となるべく開発されたもので、すべての生物の生態を表示・保証するものではありません。また植栽は目黒区の潜在自然植生以外のものを含みます。掲載の生物の写真はイメージです。



外観（目黒川沿い）



セットバック部の歩道状空地と緑地帯 ラウンジから目黒川沿いを眺める

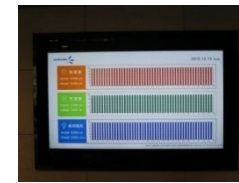


西側道路沿いの植栽帯

エントランスアプローチの植栽帯

スマートマンション

当プロジェクトでは、共用部に創蓄連携システム（太陽電池モジュール50kW+リチウムイオン蓄電池20kWh）を設置し、太陽光発電のうち40kWを売電して収入を管理費に充当している。残りの10kWを蓄電して共用部の照明等に用いている。また非常時の停電等に対応する為に、各住戸内にも1kWのリチウムイオン蓄電池を設置している。エントランスには、インフォメーションの他に、共用部の電力使用状況を入居者にお知らせする機能を持ったデジタルサイネージを設置している。



デジタルサイネージ



屋上の太陽電池モジュール

風の流れを建物内へと導くパッシブデザイン

自然の風や陽光を建物内部へと導くために、2階から建物の頭頂部に向けて3カ所の吹抜空間「トリプル・エコ・シャフト」を採用した。目黒川や周辺の豊かな自然環境がもたらす恩恵を建物全体で享受できる様配慮することで、潤いと安らぎを感じる事ができる空間としている。

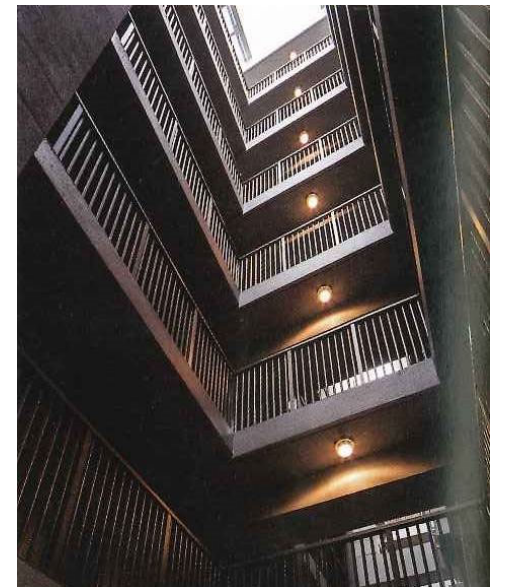


外観（北側より）

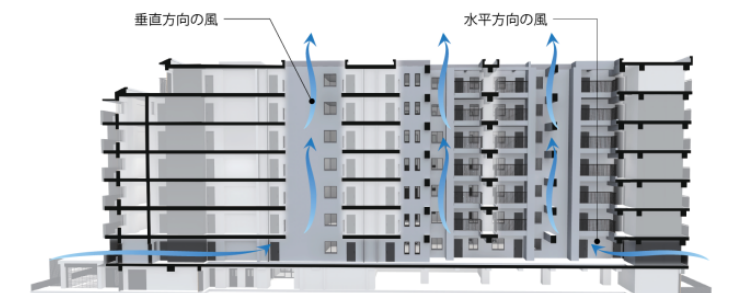


設計担当者

総括：田村丈二/建築：吉満ひとみ、中島佑二/構造：阿部勇治/設備：藤木昭弘、富岡浩、森貴美/監理：岡精教



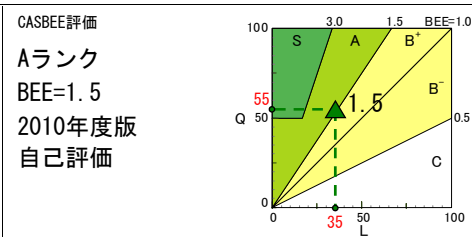
吹抜部



パッシブデザイン 概念図

TREPLE ECO SHAFT DESIGN

所在地	東京都目黒区
竣工年	2016年
敷地面積	2,708㎡
延床面積	10,256㎡
構造	RC造
階数	地上8階



主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（地域の郷土種への配慮、野生小動物の生息域の確保）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（エコシャフト、太陽電池モジュール）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（LED照明、エコジョーズ）
- LR1. 4. 効率的運用（MEMS、HEMS）
- LR2. 1. 水資源保護（節水型便所）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（建物緑化、地域環境に配慮した建物配置）